【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	東京都

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	文京区立第五中学校					
学年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	0	6	１６
生徒数	５８	５８	６８	0	１８４	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「生徒一人一人の学力を伸ばすための指導法の工夫・改善」

－観点別学習状況の評価及び評定の工夫改善とそれに伴う授業実践－

２．研究内容と方法

（１）　実施学年・教科

全学年・全教科で実施

（２）年次ごとの計画

平成１５年度

○　テーマ

「生徒一人一人の学力を伸ばすための指導法の工夫・改善」

－観点別学習状況の評価及び評定の工夫改善とそれに伴う授業実践－

○　研究の見通し

①　全教科・全学年において個に応じた指導の展開をするために、習熟度に応じた少人数編成授業・ティームティーチング（ＴＴ）・選択履修幅の拡大を全校での指導体制として確立。

②　全教科・全学年において指導と評価の一体化を図って、指導法の工夫・改善をし、学力の向上を図る、との基本方針の下、校内研究と授業実践により追究をしているところである。

○　研究の内容・方法

①　全教科・全学年において個に応じた指導体制の確立

ア　習熟度別少人数編成による授業（全学年　数学科、英語科）

イ　ティームティーチング（ＴＴ）によるきめ細かい指導（全学年　社会科、保健体育科）
ウ　可能な限り選択できる選択教科履修幅の拡大（全学年　全教科）
②　全教科・全学年において指導と評価を一体とした指導法の工夫・改善
ア　観点別学習状況の評価の工夫を図る
イ　生徒の観点別学習状況の達成率を高めるための指導法の工夫・改善を追究する

平成１６年度
〇テーマ　「生徒一人一人の学力を伸ばすための指導法の工夫・改善」

〇研究の見通し

基本的に平成１５年度の研究の体制やテーマを継続し、２年間の研究とする。

〇研究の内容・方法

全教科・全学年において
①　個に応じた指導体制の充実
②　指導と評価を一体とした指導法の工夫・改善の継続・充実
③　指導体制の確立および指導法の工夫・改善によって得られた成果の把握・検証

（３）研究推進体制

校長－校内研究推進委員会：教頭・フロンティアティーチャー・推進委員(６名）－教科部会

Ⅲ　平成１５年度の研究成果及び今後の課題

１　研究の具体的内容と成果

（１）全教科・全学年において個に応じた指導体制の確立の実現

①　習熟度別少人数編成による授業（全学年　数学科、英語科）
ア　各学年２学級を[基礎][定着][発展]の３クラスに再編成
イ　編成の前に、少人数編成や習熟度別の意義、各クラスの学習内容について説明やガイダンスを行う。
ウ　所属するクラスは生徒の希望を優先する。編成の人数は一定ではない。生徒と保護者との話し合いを前提とし、周知のプリントを配布する。
エ　生徒の実態によっては学期の区切りや単元の区切り等で再編成をする。

②　ティームティーチング(TT)によるきめ細かい指導（全学年　社会科、保健体育科）

ア　社会科：しらべ学習、グループ学習、授業中での個に応じた質問やアドバイス等
イ　保健体育科：個に応じた実技指導、グループによる課題別指導の展開等

③　可能な限り選択できる選択教科履修幅の拡大の実施の実現（全学年　全教科）
ア　基礎的基本的な学習を確実に身に付けたり、一層の学力向上や興味・関心などの個に応じて、生徒自身がコースを選択し、第一希望により履修することを原則とする。
イ　各学年とも国語・数学・英語の三教科を基礎講座の柱とする。
ウ　あくまでも必修教科の補充的、もしくは必修授業を土台とした、課題別・発展的な学習と位置付ける。
エ　実技講座は、得意分野の広がりを目指して、各自の興味・関心に応じて選択する。
オ　実施時間数　１学年年間３０時間（途中から週１コマ）　２学年年間７０時間（週２コマ）　３学年年間１６５時間（週４コマ＋途中から１コマ）
カ　多様な選択教科のコース一覧

学　年	第１学年	第２学年		第３学年			
講座名	基礎講座	基礎講座	実技講座	基礎講座			実技講座
選択教科名	選択	選択Ａ	選択Ｂ	選択Ａ１	選択Ａ２	選択Ａ３	選択Ｂ
開設教科名及び教科コース (　)内はコース数	国語(2) 数学(3) 英語(2)	国語(2) 数学(3) 英語(2)	音楽(1) 美術(1) 保体(2) 技家(2)	国語(2) 数学(3) 英語(2)	国語(2) 数学(3) 理科(2) 社会(2)	理科(2) 社会(2) 英語(2)	音楽(1) 美術(1) 保体(2) 技家(2)
コース数	7	7	6	7	9	6	6
全コース数	**7**	**１３**		**１７**（同教科名の各コースは同一内容）			
履修可能コース数	2	２～４		４			

（２）　全教科・全学年において指導と評価を一体とした指導法の工夫・改善

全教科・全学年において、学力の向上を、各生徒の観点別学習状況の達成率を高めることとし、観点別学習状況についての分析をし、それに基づく指導法の工夫・改善を授業実践を通して追究した。

① 全教科・全教員が生徒の実態を観て、本年度に重点とする観点を選び、研究の視点とした。

本年度重点をおいた観点一覧

教科	重　点　と　す　る　観　点	教科	重　点　と　す　る　観　点
国語	話す・聞く	音楽	音楽的な感受性や表現の工夫
社会	関心・意欲・態度　　資料活用の技能・表現	美術	発想を引き出す
	社会的な思考・判断	保・体	思考・判断
数学	数学的な見方・考え方　数学的な表現・処理	技・家	生活を工夫し想像する能力
理科	科学的思考　自然事象についての知識・理解	英語	表現の能力

②　年間のべ１６回、全教科・全教員が校内において授業を公開し、相互に授業の評価をしつつ、研究授業においては講師の指導・助言をいただいた。また、年２回の授業公開期間においては、保護者や地域の人々に公開し、アンケートにて意見をいただいた。

２　今後の課題

（１）個に応じた指導体制の充実
（２）指導と評価を一体とした研究体制の充実
（３）研究成果の検証の方法

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

（１）　生徒の学習に対する意識の調査（平成１５年９月　実施　抜粋　３学年分の平均）

ア　習熟度別少人数編成授業について

①勉強の内容がよく分かる

よくあてはまる＋どちらかといえばあてはまる　７９％

②自分で学習問題を解決しようとしている

よくあてはまる＋どちらかといえばあてはまる　７１％

イ　ティームティーチング（ＴＴ）について

①勉強の内容がよく分かる

よくあてはまる＋どちらかといえばあてはまる　７８％

②自分で学習問題を解決しようとしている

よくあてはまる＋どちらかといえばあてはまる　６９％

ウ　選択授業について

①選択授業は期待した通りですか

十分満足＋大体満足　８８％

②選択授業はよく分かりますか

十分満足＋大体満足　９２％

考察：個に応じた指導体制の確立が着実になされるとともに、多くの生徒にとっても学びやすく、主体的に学ぶ姿が実現されつつあるとの成果が得られつつある。

（２）　全教科・全学年で評価と指導を一体化した授業改善による学力向上の成果について

①　現段階では、生徒の学力の向上について数値を比較して捉えることはできないが、小テスト、単元別テスト、定期考査、レポート等で、基礎的基本的事項の理解については、手ごたえを得ている。
　今後、学力調査や次年度も含め比較できる資料等によって成果を把握をする。

②　全教科・全教員による観点別評価の分析及び授業改善の研究の方法による成果については１年次末までには分析、考察をし、次年度につなげ、継続した研究課題とする。

Ｖ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

１　本事業について保護者、学校運営連絡協議会委員、地域の人々等への周知

（１）保護者会での説明や報告、学校運営連絡協議会での説明や報告
（２）学校だより（毎月発行）での紹介
（３）授業公開の実施（年２回、土・日曜日を含めたのべ６日間）

２　区内および都内の学校等への普及

（１）平成１６年１月２２日、文京区主催「『文の京』の明日を創る教育のつどい」において区民向けのパンフレットに本校の取組を掲載、配布。
（２）平成１６年２月に本校の取組についてパンフレットを作成し、都内の全中学校、教育機関、区内全小中学校、本校の保護者、地域関係者、関係機関等に配布し、普及と周知を図る。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　■　６学級以下　□　７～１２学級
□　１３～１８学級　□　１９～２４学級
□　２５学級以上

【指導体制】　■　少人数指導　■　Ｔ．Ｔによる指導
□　その他

【研究教科】　■　国語　■　社会　■　数学　■　理科
■　外国語　■　音楽　■　美術　■技術・家庭
■　体育　□　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■　有　□ 無